

# 英語科学習指導案

日時 平成17年9月 7日(水) 4校時  
 学級 3年生 男子14名 女子19名 合計33名  
 授業者 岩泉町立小本中学校 教諭 遠藤美保子

1. 単元名 Unit 4 (東京書籍 NEW HORIZON English Course 3)

2. 単元について

(1) 教材観

Unit 4は、日本文化を紹介する英語パンフレットから、落語で使われる「せんすの使い方」の説明を取り上げ、実際に聞きに行った落語の小話から日米の表現の違い、とりわけ言語表現の違いについて触れていく。

まず、Starting Outでは、落語の中で使われる小道具「せんす」の意味するものを紹介しながら「せんす」の使い方を紹介し、健の家に滞在するカナダ人のエレンさんを「週末に落語を聞きに行きませんか？」と誘い、その聞きに行った落語から飲食店での言葉による失敗の小話を2つ紹介している。特に、「すみません。」という日本語の多義性が問題となっているテーマのおもしろい小話が展開されている。「すみません」は便利な表現で、「注意をひくとき」「謝るとき」「お礼を言うとき」のいずれにも使うことができるが、英語では、それぞれ、典型的には"Excuse me." "I'm sorry." "Thank you." と言うべきところで"I'm sorry." と言ってしまふ間違いが多い。そんな言葉の意味から日本語と英語との言葉の失敗が展開されていく。いずれもふだん日常では何気なく頻繁に使っている言葉から、思わぬ誤解を招くことがあるという興味深い話題が盛り込まれた単元である。

言語材料としては、Starting Outで how to (~~のしかた、方法) <疑問詞+to不定詞>の表現を学習する。文法用語はできるだけ避けて、how to ~ 「~の方法、~のしかた」、what to ~ 「何を~したらよいか」というように意味を理解し、パターン化して学習を進めることで定着を図りたい。また、Dialogでは、「It is ~ (for+人)+to+動詞の原形」の文を学習する。ある事象をとらえて「自分のことや友達のことを表現してみる」活動ができる好素材である。Itはこれまでに、1年生のUnit2で "Is that a park?" "Yes, it is." "It's a big park." が初出で「それ」という意味の代名詞で学習しているほか、itの特別用法として「天候・時刻」をあらわすitを学習し、特にそれ自体意味を持たないことを学習している。また、to不定詞の意味は2年生で学習し、更に3年生のUnit3で「to+動詞の原形」がすぐ前の(代)名詞を修飾することや、同じくUnit3で「~~して」という意味で原因を表すことを学習している。したがって、それほど抵抗なく受け入れられると考える。加えて、この文型を使って表現する上で必須の単語であろうdifficult, important, easy等の単語もあえてスポットを当てて復習を図る必要があると考える。

また更に、Reading for Communicationでは、英語と日本語との微妙なニュアンスの違いからくる間違っただけの使い方、誤解を招くこと、そして英語と日本語の意味を1対1で対応させることの問題点を意識させるためにもとてもわかりやすい例である。話題性からコミュニケーションを図るきっかけとなる大切な表現の1つであることから、意義深い題材である。

(2) 生徒観

生徒の知能検査から推定される学力期待値は、学級平均で50.8となっており、全国平均50.0に比べてほぼ同じ水準にある。また、個々の生徒間の知能偏差値の散らばりの度合い(SD)は、9.4で、全国基準値10.0に比べるとやや低い程度である。つまり、知的水準も個人間の散らばりもほぼ全国平均に近い集団であるため、個々の知能の特徴を指導に生かしていくことが大切な学習集団と考えられる。一方、教師の観察から見ると、授業では消極的で発言や挙手もそれほど多くはない。家庭学習もほとんど行なわれていない状況にあるため定着が難しい。指導に困難を感じる事もあるし、特別に支援が必要な生徒も数名いる。ただ、授業中は全体的に元気で明るく言語活動に取り組んでいる。下の表は、今年度1学期中間テストの結果と1学期期末テストの結果である。

<1学期中間テスト>

表現の能力 (書くこと)	理解の能力 (聞くこと)	理解の能力 (読むこと)	言語や文化についての 知識理解
58%	75%	72%	76%

<1学期期末テスト>

出題分野	リスニング 1番~4番	単語・慣用句等 5番~7番	文法・文構成等 8番~10番	読解 11番~13番	英作文 14番	全体
分野別 平均点	$\frac{13.4}{20}$	$\frac{12.4}{18}$	$\frac{13.8}{20}$	$\frac{26.1}{36}$	$\frac{3.9}{6}$	$\frac{70.2}{100}$

表現の能力 (書くこと)	理解の能力 (聞くこと)	理解の能力 (読むこと)	言語や文化についての 知識理解
65%	67%	73%	69%

また、次の表は、昨年度12月に行なわれたCRTの集計結果である。

<観点別>

評価基準	コミュニケーション への関心意欲態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識理解
A	63%	34%	38%	28%
B	22%	34%	38%	19%
C	16%	31%	25%	53%

領域	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
全国比	95%	101%	90%	80%

これらの結果から、

- ・「聞くこと」「話すこと」の領域では、全国平均と同じくらいの学力が定着しているが、「読むこと」「書くこと」の技能が低い。
- ・コミュニケーションへの関心意欲態度の評価基準A、Bの生徒が多く(A + B = 85%)、そのことから失敗を恐れずに英語を話そうとする態度が育っていることがうかがえる。
- ・言語や文化についての知識・理解の中で、特にも正しく単語などを書くという文字等の知識が定着していない。

また、これまでの様々な検査結果等をまとめてみると、

- ・『英文を細部にわたり正確に読み取る問題、文法・語法の知識が必要となるような問題』、とりわけ文章中の空所に適語を補うような問題、語順整序の英作文の正答率が低い。また、『記述式の問題やある場面やテーマなど条件を与えられた自由英作文』は、まったく答えない生徒もかなり多い。

よって、今後の指導方針として、聞いたり、話したことを、書いて表現する練習量を増やしていくことが大切であると考えられる。そのためにも、音声練習したことを文字化していく学習(音声と文字の連携 = 「読むこと」「聞くこと」「書くこと」)や対話練習や読み取り練習の後に、相手のことや主人公などを主語にした文章をリライトしていく練習を積み重ねていくことが必要と思われる。

### (3) 指導観

文法的に見てみると、「疑問詞+不定詞」と「It is ~ for ~ to...」の用法が主立った文法事項になる。難しい文法用語はできるだけ避け、イディオム的にとらえてできるだけ生徒に抵抗感を感じさせないような配慮をしたい。いずれの文型も形・意味・用法をしっかりと確認し、それらを使って自己表現できたり、簡単な対話ができるようになるまで指導していきたい。そのためには、できるだけたくさんの例文や繰り返しによる反復練習で覚えるようにし、更にその練習した英文を「書くこと」で文字化し、文構成・語順の確認をさせながら定着を図っていききたい。

語彙的には、それほど困難を生じさせるような語句はないが、既習の語句や慣用句等も確かめながら進めたい。また、この単元は、日米の文化の違いや、言語能力の不足を補うストラテジーとしてジェスチャーを使うなど、相手に伝える方法を自分で考えて活動する大切な文化的な要素が含まれている。よって、いろいろな場面を想定しながら実際におこなってみたい。

最後に、言語の多義性について触れ、「1つの単語には1つの意味」という概念を捨てさせ、1つの単語がいくつも意味を持っていることがあること、そして、それがどの意味で使われているのか英語を母国語としない日本人には、難しい場合もあるが、いくつか例を示して指導したい。そして、英文という語句のまとまりに、単語1つ1つ意味をあてがって訳すと間違っただけになるおそれがあることを生徒と確かめながら学習していきたい。

話題性で注目すべき点は、やはり「落語」である。しかも、英語による「落語」となれば尚興味深い。生徒の中には「落語」そのものに興味がない、或いは詳しく知らないという生徒も多いであろう。日本の伝統芸能のひとつとして取り上げ、その芸を広く海外へ広めようと英語による「落語」に挑戦し、活躍している人物や、外国人で「落語」を学んでいる人などを紹介しながら、ひろく言葉の持つ「おもしろさ」や言語のニュアンスの違いなどにも興味を持たせるような指導を図りたい。

全体として楽しく言語活動をしながらも、ポイントはしっかりおさえて学習し、定着を図っていききたい。

## 3. 単元の目標

### (1) コミュニケーションに対する関心・意欲・態度

英語の落語の内容について、理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けることができる。

### (2) 表現の能力

学習したまとまりのある英文を正確に音読することができる。(読むこと)

基本文型を用いて、自分のことを述べたり、相手に尋ねたりすることができる。

### (3) 理解の能力

本文を読み、概要を読み取ることができる。

### (4) 言語や文化についての知識・理解

日本と諸外国との日本文化的な違いを理解することができる。

## 4. 単元指導計画と評価 (総時間数 6 時間)

### (1) 単元の指導計画

Starting Out	-----1h
Dialog	-----1.5hs (本時 1 / 1.5)
Reading for Communication	----- 2.5hs
Your Turnと単元の評価	----- 1h

(2) 評価

月	題 材	目 標	評 価 規 準			
			コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
9 ~ 10	Unit 4 An American Rakugo- ka	日米の文化の違いを知る。ジェスチャーや言い換えなど会話方略が使える。	ジェスチャーを活用したり、言い換えたり、説明しようとする。	「It's~ for ~ to...」の文型を用いて自分のことを表現できる。	日米のマナーの違いを正しく読み取ることができる。	日米の注文のしかたの違いがわかる。 疑問詞+不定詞 It ~ for ~ to ~ の構文、意味、用法について理解できる。
	Listening Plus 4 落語家クワリ-	落語家ビルの外見の取材メモが取れる。			大切な部分を聞き取っている。	上記の構造がわかる。
	Speaking Plus 3 道案内	目的地までの行き方を尋ねたり、教えたりできる。		相手に応じて適切に表現できる。		道案内の表現がわかる。

5. 本時の指導

(1) 目標

・「It's ~ for ~ to...」文の形・意味・仕組みがわかり、言語活動で積極的に使うことができる。

(2) 評価

観 点	評 価 規 準	具 体 の 評 価 規 準 概ね満足と判断される状況(B)	努力を要する生徒の 指導の手だて
表現の能力	「It's~ for ~ to...」の文型を用いて自分のことを表現できる。	語順を間違えずに言ったり、書いたりできる。	支援 机間支援をし、文構造の理解よりも、自分のことについて言えるように支援する。
言語や文化についての知識・理解	「It's~ for ~ to...」の構文、意味、用法を理解できる。	「It's~ for ~ to...」の構文を使って、語順を間違わずにいろいろな文を書くことができる。また、意味を言うことができる。	支援 構文をパターン化して文構造の支援をする。語句がわからない生徒には、ヒントを与える。

(3) 本時の指導の構想

本時は、ある事柄が自分に取ってどうなのか、例えば「英語を話すことは、自分に取って簡単なのか、難しいのか。」また、相手にとってはどうなのか、自分のことをよりわかってもらったり、相手のことをより理解する表現の1つとしてとらえ指導する。しかも、それがより口語的で一般的な表現であり、日常でもごく自然に使用される表現であることから、自分のことを表現するためのコミュニケーションの糸口の1つとしても大切且つ比較的頻度の高い大切な表現であるととらえる。自分のこととして、となれば、表現に困難を生じる場面も出てくるかも知れないが、生徒の思考にあまり混乱を招かないように指導していきたい。

また、「仮主語」や「真主語」といった文法的な用語も極力使わないように心がけ、口頭練習を数多く取り入れて「使える表現」として定着させたい。そのためにも、生徒に語順を意識させるための支援を試みながら、あまり難しくなくゲーム的な要素もとり入れて指導したい。できれば活動の中から作られた英文を次時のディクテーションへとつなげるなどの「書くこと」の活動も試みながら学習したい。

導入段階でも、前時の活動からできた英文の「書くこと」の活動から入り、発展段階では新文型の必然性を感じる場面を設定しながら、ある行動が自分にとってどうなのか表現させることで新しい表現を必然的に引き出していきたい。そして、クイズ的・ゲーム的要素も織り交ぜた学習を取り入れながら、文型の理解を図りたい。

終末段階では、本時を振り返り「書くこと」で整理とまとめを行ない、個別の支援によって理解度を確かめながら達成感と今後の学習への意欲を高めさせて終わりとしたい。

(4) 展開

段階	時間	学習内容・生徒の反応等	指導上の留意点、評価、支援 資料等
導入	10	1. あいさつ 2. Dictation  3. 導入 英語を聞くことが難しいか、易しいかを考え、答える。	・元気よく笑顔で挨拶をする。 ・全員が素早く行動できるように、的確な指示を出す。  ・集中して聞かせる。
展開	30	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自分にとって簡単なことか難しいことか考えよう。</div> 4. 説明 (1) さまざまな例を出しながら練習する。 5. 練習 (1) コミュニケーション活動 友達にインタビューして、友達の考えを知る。  (2) カードゲーム 班毎に文構成を確認する。 6. 発表 書いた英文を発表する。  7. 教科書本文の範読  8. 新出語句・本文の練習	・自分のこととして考える。 支援 ・大きな声を出して練習する。  ・不得意な生徒には、積極的に関わる。 評価 ・間違いのないように正しい語順を確認させる。 支援 ・語順を確認しながら、発表させる。 評価 ・自分のことを自身をもって発表できるようにする。  ・P.C と音声 (C.D) を通して本文の内容を推測する。  ・読めない語句や、音読練習できない生徒の机間支援をする。
終末	10	8. 本時の学習のまとめ 9. 評価 教師の評価 自己評価	・新出文型を理解できているか確認しながら、個別に確認する。  ・次へつながるよう良かった点を中心にほめる。 ・今日の学習活動の自分をしっかりと振り返らせる。

(4) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">自分にとって簡単なことか、難しいことか考えよう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">It is . . . for ダレダレ to + 動詞の原形 (ダレダレにとって ~ ~ することは . . . です。)</div>	<p>『英語を話すことは、わたしにとって ~ ~ ~ です。』</p> <p style="text-align: center;">It is . . . for me to speak english.</p> <p>発表された英文</p> <p>1 _____</p> <p>2 _____</p> <p>3 _____</p> <p>4 _____</p> <p>5 _____</p> <p>6 _____</p>	<p>今日のヒト言葉</p> <p>easy</p> <p>difficult</p> <p>important</p> <p>hard</p> <p>fun</p> <p>interesting</p> <hr/> <p>me you him</p> <p>her them us</p>
<p>例文</p> <p>1 _____</p> <p>2 _____</p> <p>3 _____</p> <p>4 _____</p>		

## 単元の評価規準と具体的評価規準

単元	到達目標	評価規準		具体的評価規準	評価	方法
Unit 4 American 落語家  Starting Out	落語でのセンスの使い方を知り、落語について関心を持つ。	英語の落語の内容について、理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続けることができる。	関心 理解	内容を理解し、聞くことができる。「疑問詞+不定詞」の構造がわかり、自分のことを述べたり、相手に尋ねたりすることができる。	A	観察 発表
				理解できないところがあっても推測するなどして聞き続けることができる。基本文の構造と意味がわかり、「～～の方法、しかた」について、自分のことを述べるができる。	B	
				ヒントを参考にして、その場面に注目する。基本文を読むことができるように練習する。	C	
Dialog	「～することは、・・・にとってーです。」と自分のことを表現し、それをういて簡単な対話をするができる。	「It is + 形容詞 + for... to -」の文の形を使って自分自身のことについて表現できる。	表現 理解	「It is + 形容詞 + for...to -」の文の形を使って、自分のことを表現したり、それをういて相手に聞いたり、答えたりすることができる。	A	発表 テスト ワークシート
				「It is + 形容詞 + for...to -」の文の形を使って、自分のことについて話すことができる。	B	
				p.45 の基本文の意味を理解し、読むことができるように練習する。	C	
Reading for Communi- cation	日米の文化の違いの一例として、食堂で注文するときの違いを知る。	英語で語られる小話を読んで、内容を理解できる。言い方がわからないときなどにジェスチャーを使って意味を伝えることができる。	表現 理解 知識	日米での飲食店での注文の違いがわかり、小話の主人公がなぜ「It's not easy for me to get food.」なのか理解できる。また、相手に身体の動きでその言葉の意味を伝えることができる。	A	発表 テスト ワークシート
				飲食店での注文の仕方が日本と欧米では違うということがわかる。日本語の意味を見てそれをジェスチャーで相手に伝えることができる。	B	
				p.46 の英文とその大意を照らし合わせて、本文の内容を理解できるまで読む。	C	
	英語で語られる小話を読んで、内容を理解する。特に、「すみません。」と、I'm sorry.の違いを理解できる。	英語で語られる小話を読んで、内容を理解できる。特に、言語表現の違いを感じ、理解することができる。困ったときの表現の工夫をすることができる。	表現 理解 知識	語の多義性を理解し、言い換えや、ジェスチャー等を活用し、説明することができる。	A	発表 テスト 発言 ワークシート
				日米等の文化的な違いを理解することができる。p 47 の本文の概要を読み取り、内容を説明することができる。ジェスチャー以外に自分のことを相手に伝える方法を考えて、伝えることができる。	B	
				p47 の英文とその大意を照らし合わせて、本文の内容を理解するまで読む。	C	